

従業員数による企業規模を定義し直そう  
—製造業もサービス業も1,000名未満は小企業、30,000名未満は中企業、  
30,000名以上を大企業と定義し直そう—

Q：従業員規模による大企業、中小企業の定義を変えた方がよいと考えているようですね。

A：日本では、サービス業では従業員 50 名未満が中小企業、50 名以上が大企業とされ、製造業では従業員 300 名未満が中小企業、300 名以上が大企業とされているようですが、この定義は変更すべきと考えます。サービス業には店舗数 11 以上のチェーンストアが数多く誕生していますので、従業員 50 名以上が大企業という定義は実体と合致しません。また、製造業も M and A や海外展開している企業が多く、300 名以上が大企業という定義は時代に合いません。

Q：どのように定義し直せばよいのですか。

A：(1)製造業、サービス業という区別はしないことが第一。

(2)小企業は従業員 1,000 名未満と定義すべきです。

(3)中企業は従業員 1,000 名以上 30,000 名未満と定義すべきです。

(4)大企業は従業員 30,000 名以上と定義すべきです。

(5)「事情が変わったのだから企業規模による定義を社会の実情に合わせて変更しよう」「成長戦略のためには小企業、中企業、大企業の再定義が不可欠」と考えます。